

## 令和6年度における県立中央病院の主なトピックス

## 令和6年度

## ＜高度急性期医療の提供＞

## ○感染症・総合内科外来の開設（4月）

感染症を専門領域に持つ医師の赴任により、これまでの「総合内科」の診療を引き継ぐ形でスタート。

## ○手術支援ロボット 2台目の導入（12月）

令和元年9月に手術支援ロボット「ダヴィンチ」1台目導入(R1.9)から5年が経ち、ロボット手術を行う診療科が増え、その稼働率も非常に高いため、令和6年12月に2台目を導入。

## ○経カテーテル的大動脈弁留置術(TAVI)の導入（3月予定）

従来の外科的人工弁置換術(手術)に比べて人工心肺を用いず、開胸しないため、体への負担が少ないことから、これまで手術に耐えられないと判断された高齢の方などにも可能な大動脈弁狭窄症の新しい治療方法「経カテーテル的大動脈弁留置術(TAVI)」を導入予定。

## ＜医師・看護師等の確保と働き方改革＞

## ○医師の時間外労働削減への取組（4月）

時間外労働の上限規制(年960時間、特定の診療科・医師にあつては年1,860時間)を遵守するよう、継続的にチェックと働きかけを行うとともに、勤務時間インターバルの確保、代償休息の取得、時間外勤務の多い医師への面接指導を実施。

## ○動画による患者説明WGの設置（11月）

職員の業務削減と患者の疑問や不安解消のため、患者向け動画作成を推進するワーキンググループを設置して検討中。

## ○ICTを活用した業務の効率化 -看護師勤務表作成の自動化-（12月）

看護師長等が作成していた看護師の勤務表作成を自動化するため、勤務表作成支援システムを、令和6年12月に導入し、勤務表作成に要する業務時間を削減。

## ＜地域連携の推進と圏域内のネットワーク化＞

## ○岩美病院への医師派遣の拡大（4月～）

岩美病院からの要請により、心臓内科・腎臓内科・眼科に加え、内科等の医師を派遣。  
(R5年度:7回程度/月 ⇒R6年4～10月:12回程度/月)

## ○東部医療圏の医療人材確保に係る医療連携協定締結（10月）

医師不足の深刻な中山間地域を含む東部医療圏の病院間及び鳥取大学医学部で、医師の派遣や育成に連携して取り組むための基本協定を締結。

(参加病院等) 県立中央病院、鳥取市立病院、鳥取赤十字病院、岩美病院、智頭病院、鳥取大学医学部

## ○東部救急医療体制連携強化推進会議の設置（9月）

東部医療圏の救急医療体制の連携強化を推進するため、救急医療機関・消防機関・県・鳥取市等による連携推進会議を設置。(事務局:県医療政策課)

## ＜健全経営の確保＞

## ○レセプト請求漏れのチェック（3月予定）

レセプト請求漏れがないかのチェックをコンサルタント会社に委託。診療単価の向上に取り組む予定。

## これまでの取組

### 1 高度急性期医療の提供

#### ○救急医療（3次救急）への対応

- ・新病院開設に併せて救命救急センターの充実(14床→20床)を図るとともに、屋上ヘリポートと救命救急センターを専用のエレベーターで直結させ、迅速な患者搬送を可能としている。
- ・24時間体制で急性心筋梗塞及び脳卒中の治療が可能な「心臓病センター」及び「脳卒中センター」各45床を配置。脳血管撮影装置を導入して、脳血管内治療を強化している。
- ・血管X線撮影装置を備え、心臓カテーテル検査と外科的手術を連続かつ安全に行える「ハイブリッド手術室」を新設。集中治療室(ICU6床)及び高度治療室(HCU16床)を手術室に隣接して配置することで、重症患者の円滑な搬送を可能としている。
- ・令和3年4月から専任の集中治療専門医を確保して、救急集中治療科、小児救急集中治療科、救急外傷外科を新設するとともに、同年5月からは「特定集中治療室管理料」の算定を開始。
- ・令和4年度からは、救命救急センターとICU、HCUを「高次救急集中治療センター」として、一体的に運用することにより、集中治療分野の対応力向上を図っている。
- ・令和5年5月より、救急外来患者のみならず院内急変患者にも対応できるようにするため、救急病棟(EC)内に4床のICUを設置した。従来のICUと合わせ、ICUは合計10床となった。
- ・令和5年5月には、県内で初めて「SpectralCT7500」を導入。従前の半分以下の造影剤量で患者の負担軽減を図ることができることに加え、胸部から骨盤部までを約2秒で撮影するため、体動抑制が困難な救急患者でも精度の高い検査を行うことが可能となっている。

#### <主な実績>

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
救急車受入件数	3,047件	4,545件	4,266件	4,340件
ドクヘリの受入件数	85件	242件	292件	198件

#### ○がんへの対応

- ・新病院開設に併せて、がんの早期診断に有効なPET-CTや強度変調放射線治療機(IMRT)、高精細な4Kモニターを備えた手術用内視鏡システムを導入。令和元年9月に手術支援ロボット「ダビンチXi」を導入。診療科の増加と稼働率が高いことから、令和6年12月に2台目を導入した。
- ・令和元年10月には、がんゲノム医療連携病院に指定され、がんゲノム医療を開始するとともに、緩和ケア病棟(10南病棟)を設置して、患者の苦痛や不安へ配慮している。
- ・令和元年12月には、がん医療を横断的に統括するがんセンターを設置。令和2年1月には、県内で唯一の「国立がん研究センター認定がん相談支援センター」に認定され、年間約8,000件の相談に対応している。
- ・手術支援ロボットダビンチXiについては、これまでの泌尿器科(前立腺がん)や外科(胃がん、食道がん、結直腸がん)に加えて、令和4年5月からは呼吸器・乳腺・内分泌外科でも、胸腺腫瘍や肺がんに対するロボット手術を開始。令和5年8月からは産婦人科領域においてもロボット手術を開始した。
- ・強度変調放射線治療機については、令和4年4月から放射線治療専門医が2名体制となり、5月から本格的なIMRT治療を開始した。
- ・山陰地方初の取組として、放射線を出す元素やこれを組み込んだ薬剤を体内に取り入れて行う「放射性同位元素(ルタテラ)内用療法」も開始した。
- ・高精度前立腺ターゲット生検装置(トリニティ)導入により、より高いがん検出率と腫瘍の完全切除率が向上した。
- ・早期胃がんや大腸がんに対する内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)を頭頸部がん(咽頭部)に適応を広げ実施したことで、嚥下や発声機能の温存が可能となり、より患者にやさしい手術が可能となった。

## ○小児・周産期母子医療の強化

- 一般不妊治療から体外受精・胚移植、顕微受精をはじめとする高度生殖補助医療まで含めた不妊治療を実施している。

(実績…R4年度:103件、R5年度:71件、R6年4～12月:62件) ※一般不妊治療管理料の件数

- 東部の周産期医療の拠点として、新病院開設に併せて、新生児治療室を充実するとともに、合併症の妊婦等の治療を行う母体胎児集中治療室(MFICU)を増床。

新生児集中治療室(NICU)・回復室(GCU)(各6床→各12床)

母体胎児集中治療室(MFICU)(2床→3床)

- 新生児集中治療室(NICU)については、看護師の人員不足により稼働病床を6床に制限していたが、必要な人員を確保し、令和5年度から9床に増床した。
- 小児外科専門医の赴任により、今まで兵庫こどもセンターや鳥取大学に搬送していた小児疾患の手術が当院で完結できるようになった。

## ○循環器病対策の強化

- 不整脈に対し、東部圏域で唯一のクライオアブレーションを導入し、時間短縮、再発率低下ができるようになり、より患者にやさしい治療ができるようになった。
- 心臓の僧帽弁形成、大動脈弁置換、一部の冠動脈バイパス術に対し、内視鏡を用いた小切開手術(MICS)を導入し、体にやさしい手術ができるようになった。
- 新しい心臓の検査(FFR<sub>CT</sub>解析システム)の導入により、CT画像を解析することで心臓カテーテル検査と同等な診断が可能となり、体にやさしい検査が可能となった。
- 日本脳卒中学会より専門的治療が24時間・365日可能な施設である『一次脳卒中センター:PSC』に認定され、機械的血栓回収や血栓溶解療法(t-PA)を実施することが可能となった。
- 令和5年9月より、脳卒中相談センターを開設し、脳卒中療養相談士として専門医、看護師、MSWが相談員として活動を開始した。

## ○災害時の安全・安心の確保

- 地震などの災害発生時においても病院機能を維持し、被災患者を受け入れるため、免震構造を採用するとともに、医療機能を2階以上に配置し、洪水時等の病院機能を確保。洪水時等には国道9号線から救急車が直接病院にアクセスできる搬送路を整備している。また、大規模災害時に多くの患者が集中的に搬送されても対応可能なトリアージスペースを確保している。
- 令和3年4月にはオール・ハザード危機管理体制の構築と災害医療に特化した診療を行う災害科を新設した。

## ○医療情報の活用

- 専門職の業務の効率化のため、費用対効果を踏まえつつICTの導入を推進。令和2年度には服薬指導の記録を効率的に実施することにより、服薬指導件数の大幅な増加が期待できるシステムを導入した。
- また、電子カルテに蓄積された医療情報を統計的に分析することを通じて、医療の質と経営効率を同時に高める取組も実施。(栄養食事指導や褥瘡ハイリスクケア加算の徹底)
- 診療密度向上に向けた対策の強化(平均在院日数の短縮、オーダー漏れ対策)にも取り組んでいる。
- ベッドを効率良く稼働できるよう、電子カルテのポータルサイトに病棟ごとの空床状況を掲載。

<ポータルサイト>

本日、空床が多くなっています。		病床稼働状況 4月1日(月)											
		一般病床数(※1) 394床											
		稼働病床数 356床											
		空床状況											
		5北	5南	6北	6南	8北	8南	9北	9南	10北	11南	計	
男性		0	0	0	0	2	0	1	4	0	7		
女性		3	0	1	0	0	1	0	4	2	1	12	
個室		0	3	0	0	2	1	0	0	2	0	8	
要相談(※2)		4	7	0	0	0	0	0	0	0	0	11	

## ○県民理解の推進

- 広報戦略タスクフォースを設置し、ホームページや市民講座の開催、院外広報誌「赤レンガニュース」の

発行等を通じての病院の機能、活動等を広報。

- ・令和3年12月には、当院初となる「院内ツアー」を催行した。
- ・令和5年9月に、「鳥取県立中央病院診療案内2023」を刊行し、鳥取県東部・中部、兵庫県北部地域の医療機関等に配布した。
- ・令和5年度には、広報室を設置し、自治会等を対象とした出前講座の開催や職員の子ども達を対象とした「家族の参観日」を開催する等、県民の健康増進への寄与、当院の果たす役割や機能についての理解促進、将来的な医療従事者の確保等、広報対応の強化を図った。

## 2 医師・看護師等の確保と働き方改革

### ○人材の確保育成と働きがいのある職場環境づくり

- ・地域の基幹病院として高度・先進医療を提供する観点から、医師・看護師などのメディカルスタッフの更なる充実、確保と専門性を高めるよう、以下の取組みを実施している。
  - ＜主な取組＞
    - ・職員の研究・研修、キャリアアップ支援
    - ・院内保育所の運営や看護師の夜勤専従の取組等を推進
    - ・働きやすさ向上のためのハラスメント連絡会の設置
    - ・働きやすさ改革タスクフォースを設置し、有給休暇の取得等を推進
    - ・医師の時間外削減ワーキンググループを設置し、タスクシフトの推進などを提言
- ・東部圏域における医療人材の確保、医療技術の向上を図る観点から、令和5年5月に「シミュレーションセンター」を開設し、各病院や看護協会等と利用に関する協定を締結し、開放している。
  - ＜配置機器＞
    - ・超音波画像診断装置
    - ・心臓・腹部超音波検査トレーニングシミュレータ
    - ・消化器内視鏡手技トレーニング用シミュレータ
    - ・CVC穿刺挿入シミュレータ
    - ・末梢挿入中心静脈カテーテルPICCシミュレータ
- ・東部圏域内の内科医を充実させるため、令和6年度から「内科専門研修プログラム」を開設し、「病院総合診療医」を養成。将来的には中小規模の病院に専門医を派遣しうる体制を整備することを目指している。

## 3 地域連携の推進と圏域内のネットワーク化

### ○連携と協働の拡大

- ・地域医療支援病院として、回復期、慢性期の医療を提供する医療機関との連携(病病、病診連携)をより推進していくため、他病院や診療所を訪問し意見交換を実施。
- ・令和3年4月から地域の医療機関と連携して継続的な医療提供と質の向上に取り組むことの証として、「連携医療機関証」を作成し、交付する取組を開始。同年9月からは、紹介予約の受付時間を18時まで延ばし、より紹介いただきやすい環境整備にも取り組んでいる。
  - ＜登録医療機関数＞ 191医療機関(令和6年8月末時点)
  - ＜登録要件＞
    - ・鳥取県・兵庫県北部に所在していること
    - ・年間5件以上の紹介患者があること
    - ・当院の開放病床登録医療機関であること
- ・令和3年度は、岩美病院、智頭病院、鳥取市立病院に診療支援を実施するとともに、圏域内外の急性期病院とも互いの重点分野を踏まえつつ、医師の相互派遣等を含めた連携強化を図った。
- ・令和3年4月から東部圏域の4病院(鳥取赤十字病院、鳥取市立病院、鳥取生協病院、当院)での病院長会議を開催し、新型コロナウイルス感染症への協力体制や専門分担をはじめとする種々の課題に対する意見交換を実施した。
- ・令和4年度は、岩美病院、鳥取市立病院、尾崎病院に診療支援を実施。尾崎病院とは令和3年度から脳卒中カンファレンスを共同で開催し、連携を深めた。
- ・令和5年度、従前の診療支援に加え、岩美病院に薬剤師1名を1ヶ月間派遣し、その運営を支援するほか、12月から智頭・岩美の両病院に対して、日直・当直医を派遣している。(どちらも4～5回程度/月)

< 医師派遣による診療支援 >

(単位:回)

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
鳥取市立病院	33	4	0
鳥取赤十字病院	11	7	9
鳥取生協病院	0	0	1
尾崎病院	4	37	0
ウェルフェア北園渡辺病院	0	0	13
岩美病院	27	40	87
智頭病院	77	0	0
厚生病院	0	1	0
鳥取大学医学部附属病院	15	11	10
山陰労災病院	0	1	0
松江市立病院	1	0	0
島根県立中央病院	0	0	13
益田赤十字病院	2	1	3
公立豊岡病院	132	124	102
合計	302	226	238

○再編及び圏域のネットワーク化

- ・鳥取赤十字病院と連携し、病床再編や医師の相互派遣、がんの疾患別の役割分担の推進、共同キャンサーボード(がん治療に係る症例検討会)の開催等を行い、限られた医療資源等を有効活用している。
- ・平成31年度からは、県立厚生病院、鳥取赤十字病院との3病院による診療材料等の共同購入を開始するとともに、県立厚生病院との間で医薬品の一部共同購入を行っている。

4 健全経営の確保

- ・診療報酬の請求漏れ等を防止するために業務改善タスクフォースを設置するとともに、令和3年度から診療報酬の請求審査に関して、知見を有する専任の職員を配置し、さらに取組を強化。
- ・医薬品や診療材料の共同購入を進める等、費用の節減を進めるとともに、DPC特定病院群への復帰を図るための平均在院日数の短縮や手術件数の増加など、医業収益の増加を図るための対策を強化。令和4年度から、DPC特定病院群への復帰を果たした。

< 主な実績 >

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
平均在院日数	13.3日	12.0日	11.0日	11.0日
手術件数	3,992件	4,393件	4,707件	4,665件
延べ入院患者数	142,688人	150,001人	139,597人	145,795人
入院単価	73,172円	78,096円	84,171円	88,632円
延べ外来患者数	165,763人	187,840人	197,403人	194,826人
外来単価	22,009円	21,804円	21,897円	24,358円